

文学部 比較文化学科 小論文

【注 意】

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は13時00分から15時00分まで(120分間)です。
3. この問題冊子は表紙以外に8ページあり、解答用紙は4枚あります。
4. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
5. 解答はすべて解答用紙の解答欄に記入してください。
6. 解答用紙の氏名欄を除き、受験者本人の特定につながるような氏名、住所、学校名等は記述しないでください。
7. 解答用紙を持ち出してはいけません。持ち出した場合、試験をすべて無効とします。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

問題Ⅰ 次の英文を読んで、以下の設問に答えなさい。

Let's imagine. You're scrolling through your Insta-feed and you spot a post of a group of your favorite celebrities. Or you're walking into school on Monday morning when you see that super-close group in the hallway—again. And you can't help but think to yourself, I wish that were me. While it's totally normal to feel that way, we're here to tell you that there's also nothing to worry about if you don't have a huge friend-group of your own.

Sure, you might feel like you're missing out if you aren't part of a group chat with tons of people or you don't have a group of friends to hang out with every weekend. But whether you're in between groups, have a few close friends but aren't really part of a big group, or are trying to start fresh and make some new friends, just know that it's OK if you don't belong to a friend-group—and here's why.

Not being tied to a certain friend-group gives you even more opportunities to meet new people—possibly even in some unexpected places. Whether it's the girl who sits in front of you in math class, your new soccer teammate or someone you met through your after-school job at the local coffee shop, you're faced with so many chances to expand your circle. Maybe you'll get a friend who shares your interests or find a best friend who brings something totally different to the table. (1) The possibilities are endless!

Plus, even if you don't find long-term friendship with one specific person, they might end up introducing you to your next BFF* along the way, so remember to keep an open mind.

We know it sounds naïve, but take it from us: (2) quality over quantity, always. It's definitely possible to be part of a huge group of friends and feel equally close to all of them. But on the other hand, sometimes a smaller number of friendships can give you the ability to make stronger connections with those particular people and really get to know the ones you like. And in the end, it's most important to have a few close friends who truly understand you, and love you for who you are, rather than a bigger group that you might feel less in harmony with overall.

Social media can make it seem like everyone is always doing something super cool or hanging out with a million friends—even when things might be less than perfect behind the scenes. Let's say you find yourself relaxing at home on a Saturday night and feeling major FOMO*. It's

easier said than done, but don't let it stress you out. Social media can paint an unrealistic picture of friendships, causing you to compare your real-life situation to someone else's curated* life.

(3) If you find yourself stuck in that loop, it's OK to set the screens aside sometimes.

Of course, it can feel extra difficult to be in that dilemma between wanting to broaden your friendship horizons and being hesitant to put yourself out there or reach out to potential friends. When you're part of a close circle, you might be more secure in your identity—after all, you know exactly where you fit in, and you always have those friends to fall back on.

At the same time, that can make it tougher to develop a strong sense of self outside who you hang out with. Would you rather join the school yearbook staff* over the literary magazine because you want to or because all your friends are way more into photography than poetry? Are you watching that TV show because you like it or because you'll be totally lost at the lunch table after the latest episode comes out?

(4) Without that group, you'll get to know more about who you are. Then, when it's time to make new friends, you know you'll be approaching them as your most authentic self.

(Adapted from Samara Smukler, “Why it's OK if you don't belong to a friend group,” *Girls' Life*)

(注) * BFF: 永遠の親友 (best friends forever の略)

* FOMO: 取り残される恐怖 (fear of missing out の略)

* curated: 選りすぐりの

* school yearbook staff: 卒業アルバムを制作するスタッフ

- 問1 下線部（1）について、筆者が possibilities として挙げているものを、本文に即して具体的に 150 字以内の日本語で説明しなさい。（25 点）
- 問2 下線部（2）について、筆者が述べている具体的な内容を、本文に即して 150 字以内の日本語で説明しなさい。（25 点）
- 問3 下線部（3）について、筆者がこのような主張をしている理由を、本文に即して 160 字以内の日本語で説明しなさい。（20 点）
- 問4 下線部（4）の筆者の主張について、あなたはどのように考えますか。あなたの意見を英語で述べなさい。（30 点）

問題Ⅱ 次の文章を読んで、以下の設問に答えなさい。

18 世紀の演奏会は、基本的には社交の場であった。そこには音楽を真面目に聴こうとする人々もいたが、貴族社会の人間関係を維持するための場というほうが性格づけとしては適切であった。こうした状況が 19 世紀にはいると変わり始める。人々がもっぱら音楽を聴くために演奏会に出かけてゆき、静まりかえったホールの中で物音一つたてずにじっと音楽に聴き入る、あのおなじみの演奏会の光景が出現するのである。そしてその中でプログラム構成も人々の趣味も大幅に変化してゆく。一般の人にとってはかつては「懷メロ^(注1)」にすぎなかった過去の作曲家の作品がアクチュアルな意味をもちはじめ、やがてプログラムの中心を占めるようになる。そして過去の音楽家たちが一躍「巨匠」としてクローズアップされ、肖像画や胸像の形で人々にあまねく知られ、尊敬や崇拝の対象となる。こうした変化のほとんどは 19 世紀の前半に起こったことである。その意味ではわれわれの知っているような演奏会のありかた、そして音楽の聴き方の基礎はすべて、この時代につくられたといっても過言ではない。

それにしても、このドラスティックな変化はどのようにして生じたのであろうか？ この点に関して社会史的な観点から興味深い考察を行っているのが、アメリカの歴史学者ウィリアム・ウェーバーである。以下、主として彼の論述によりつつ、その変化のありようをごく簡略にたどってみることにしよう。

一口に言えば、この変化の動因は音楽文化の担い手が貴族からブルジョワ^(注2)へと移行したことであった。平たく言ってしまうと、産業革命を通じて富を獲得し、市民革命を通じて権力を獲得したブルジョワ階級が演奏会を支える層として加わったために、聴衆層が飛躍的に拡大し、演奏会が商業ベースにのるようになったのである。音楽家が、自分が関わりあいになっている貴族や一族郎党に義理で切符を売りつけるのではなく（今日でもそういう演奏会を間々見受けることは事実であるが）、興行元が音楽家と契約を結んで、不特定多数の人々を相手に切符を販売することによって演奏会が成立するよ

うになる。演奏会を支える基盤が貴族の個人的人脈から商業ベースのマネージメントに変わることによって、音楽家と聴衆の関係も個人的なものから不特定多数の聴衆を相手にする関係に変わってくる。こうして成立する音楽家と聴衆の非個人的な関係に支えられた文化のありかたをウェーバーは「マス・カルチュア」と呼んでいるが、この⁽¹⁾「マス・カルチュア」の出現が演奏会のありかたを決定的に変えてしまうのである。演奏会は社交的関係の一環としての性格を失い、そのような社会的なしがらみから自立することによって、純粋に音楽を聴きたい人の集まる場となる。しかし、今日のような演奏会のありかたはそんなにすんなり確立したわけではなかった。

音楽の「マス・カルチュア」化の先鞭^{せんべん}をつけたのは、楽譜出版の分野であった。出版もかつては個人的な人脈関係の上に成り立つ予約出版のシステムに支えられていたが、リトグラフ^(注3)の技術が向上し、質のよい楽譜を大量にかつ安価で販売できるようになった。折しも新興のブルジョワ層の人々が家庭で音楽をたしなむようになってきており、手軽に弾けるようにやさしく編曲した家庭用楽譜の需要が大量に増加したことから、専門の楽譜業者が誕生し、きちんとした流通システムをつくって楽譜を販売するようになった。

こうしたマス・カルチュア化の波はやがて演奏会にも及んでゆくことになるが、そういう状況の中で出現してくるのが、「商売」にいそしむ音楽家たちである。もとより「マス・カルチュア」の特徴は、個人的なつながりに基づくことなく商業ベースでことが運ぶことであるから、人々が人気のあるものへと流れてゆく傾向が生ずるのは目に見えている。そして人気をかちとる者ほど儲^{もう}かるという、あたりまえすぎるほどあたりまえの事態が生ずるのである。

19世紀前半にそういう存在になったのは、ヴィルトゥオーソ^(注4)と呼ばれる一群の音楽家たちであった。ピアノでいえばリスト、ヴァイオリンでいえばパガニーニがその代表格といえるであろう。サーカスマがいの超人的な妙技と華麗な演奏を売り物にした彼らは、たちまちのうちに聴衆を魅了し、絶大な人気を博することとなった。特にリストは若い女性たちの人気の的となり、楽屋には握手を求める長い列が続いていたという。中にはそこに置い

てあったリストの紅茶茶碗こうちゃぢゃわんから彼の飲み残しの紅茶を自分の香水壺びんに移しかえて大切に持って帰ったという「ほとんどビョーキ」のご婦人までいたらしい。彼らの演奏会の様子はおそらく、マウリツィオ・ポリーニ^(注5)よりはマイケル・ジャクソン^(注6)のコンサートに近いようなものであったにちがいない。こうした演奏会の聴衆にとって音楽は娯楽以外の何ものでもなかったのである。そしてこれらの音楽家たちの人気はその出演料や版權料を押し上げることになり、彼らはそれによって「荒稼ぎ」したのであった。

すべての演奏会がそうだったわけではない。聴衆層の拡大による「マス・カルチュア」化は、他方で「真面目な」鑑賞を助長する効果も果たすことになった。聴衆層全体の拡大の中では微々たるものであったとはいえ、そういう「学識ある」聴衆も確実に増えていたから、その手の人々を対象とする演奏会も徐々に商業ベースにのるようになり、独自の路線を歩みはじめたのである。「真面目に」音楽を聴く目的でない聴衆はヴィルトゥオーソをはじめとする「娯楽」目的の演奏会のほうに吸収されたから、彼らはもはや 18 世紀のようにそういう不埒ふらちな輩やからに悩まされる必要がなくなり、音楽家もまたモーツァルトのように「ドシロート」の顔色をうかがいながら音楽を書く必要はなくなった。彼らは普段お世話にはなっているが音楽については無知な某公爵夫人の顔ではなく、どこのだれかわからないけれども一生懸命自分の音楽を聴いてくれる不特定多数の聴衆の顔を思い浮かべながら音楽を書くことができるようになったのである。

そういう中で、今日われわれがよく知っている演奏会のありかたが徐々に形成されていくことになる。要するに、音楽を「真面目に」聴こうとする者も、もっぱら「社交」や「娯楽」に没頭する者も、ミソもクソも一緒にまじっていた 18 世紀のアマルガム^(注7)的な演奏会が聴衆の質に応じた機能分化をはじめたのである。それは今日でいう「クラシック」と「ポピュラー」に相当するような二つの音楽文化がはっきりと区分されたことを意味していた。この二つの音楽文化は組織も、それを支える聴衆層も、そしてもちろん理想とする音楽のありかたもはっきりと異なっていたからである。

(2) この二つの陣営の間には、徐々に対立関係が生じてくるようになった。

もとより数の上では「真面目派」は「娯楽派」にかなわなかった。そこで彼らが前面におしたてたのが「^{とうい}当為^(注8)」の論理で固めた倫理的見地からの批判であった。つまり、音楽が商業主義に毒されてヴィルトゥオーソのような悪趣味なものに走るのはいかかなものであろうか、音楽というものは本来優れた古典的作品をじっくり聴くべきものなのではなかろうか、という批判である。折しも、1840年代にさしかかる頃には、ヴィルトゥオーソをめぐる商業主義の利潤追求は過熱し、演奏会に出かけてみると予告された演奏家が実際には来なかったり、ひどい場合にはそもそも演奏会の存在自体がまったくのうそっぱちだったなどという、詐欺に等しい行為まで行われる始末で、商業主義に対する人々の不信が大いに高まってくる。人々がそろそろヴィルトゥオーソに飽きはじめてきていたことも手伝って、ヴィルトゥオーソ人気は急速に^{ちょうらく}凋落しはじめる。そして機を見るに敏なリストなどは、さっさとヴィルトゥオーソ稼業から足を洗って「真面目な」作曲家として交響詩などの作曲にいそしむようになるのである。

「真面目派」はこうして聴衆たちをみずからの陣営に引き込んで主導権をとることに成功し、こうしておおよそ 1870 年頃までには、今日の演奏会のありかたが確立したのである。

(渡辺裕『聴衆の誕生：ポスト・モダン時代の音楽文化』による。ただし、出題に際して原文の一部を改めた。)

(注1) それを聴くと懐かしく当時のことを思い出すような、古い歌。

(注2) 商工業で成功し、高い経済力と社会的地位を得た人たち。

(注3) 石を用いて印刷する版画。

(注4) イタリア語で、「名人」「達人」のこと。

(注5) クラシック音楽の領域で活躍した、イタリアのピアニスト。1942年生まれ。

(注6) 「ポップの王様」と呼ばれ、世界中のファンを魅了した、アメリカの歌手・ダンサー。1958年生まれ。

(注7) もともとは水銀と他の金属の「合金」のこと。ここでは、異なる性質のものが混じり合っていてできていることのたとえ。

(注8) そうある「べき」ことや、なす「べき」こと。哲学用語。

問1 下線部(1)について、「マス・カルチュア」とは何かを明らかにした上で、このマス・カルチュアの影響によりあり方が大きく変わった事象の具体例を挙げ、どう変わったのかを 400 字以内で説明しなさい。
(60 点)

問2 下線部(2)について、何と何がどのように対立し、その対立関係はどうなっていったのか、300 字以内で説明しなさい。(40 点)